
日本の文化・日本人の歴史的背景

縄文時代以前のはるか昔、北方からやってきた日本人の祖先が日本列島に定着してから、大陸や南方から渡ってきた人々が文化をもたらすことはあったとされていますが、早い時期から大陸とは異なる日本固有の文化が育ってきたという経緯があります。

◆該当する日本文化◆

【旧石器文化】



旧石器時代とは、打製石器の使用が始まった時代で、石器時代の初期・前期にあたり、年代的には200万年前にはじまります。

旧石器時代は、石器の出現から農耕の開始までの時代をさします。

【縄文文化】



縄文時代は、約1万5,000年前から約2,300年前と諸説あり、地質時代は更新世末期から完新世にかけ日本列島で発展した時代で、世界史では中石器時代ないしは新石器時代に相当する時代とされています。旧石器時代との違いは土器の出現・竪穴住居の普及、貝塚の形式が挙げられています。

縄文時代の終わりについては地域差が大きいものの、定型的な水田耕作・金属器の使用を特徴とする弥生文化の登場を契機としていますが、その年代について、紀元前数世紀から紀元前10世紀頃までで、多くの議論があります。



【弥生文化】

弥生時代は、日本列島における時代区分の一つであり紀元前10世紀ごろからから、紀元後3世紀中頃までにあたる時代の名称です。採集経済の縄文時代のあと、水稲農耕を主とした生産経済の時代です。

縄文時代晩期にはすでに水稲農耕は行われているが、多様な生業の一つとして行われており弥生時代の定義からは外れます。

2003年に国立歴史民俗博物館が、弥生時代は紀元前10世紀に始まることを研究から明らかにしています。

当時、弥生時代は紀元前5世紀に始まるとされており、新見解はこの認識を約500年もさかのぼるものでした。当初の新見解について研究者の間でも賛否両論がありましたが、この見解はおおむね妥当とされ、多くの研究者が弥生時代の開始年代をさかのぼらせるようになってきています。

弥生時代後期後半の紀元1世紀頃、東海・北陸を含む西日本各地で広域地域勢力が形成されて、2世紀末畿内に倭国が成立、3世紀中ごろ古墳時代に移行していきました。

◆日本における宗教の移り変わり◆

日本には多種多様な宗教の概念が入っています。

宗教的価値観の具現化したものではないとしても、古来からの神道が元となっていて、その上に仏教・密教や儒教や道教、あるいはキリスト教も含め、さまざまな外来の宗教を混在させながら、今日の日本の精神や文化の土壌は形成されてきた経緯があります。

これらの宗教混在に基づく価値観は日本独特の風俗習慣、文化に深く根ざし、祭礼、伝統芸能、武道、農業、林業、水産業、建築業、土木、お正月や七五三に至るまで、さまざまな場面に影響を及ぼし、神道を主体とする宗教

を抜きにして日本の文化や精神の本質は語れないという側面があります。

※Wikipediaより

これらから、日本人は農耕民族で多種多様の文化や宗教をとり入れた独自の民族といえます。

そして、田んぼや畑は広く屋外にあり隣接している田畑で働いている人に声をかけて仕事をしていた『声かけ民族』ともいえます。

この背景から日本人が言葉をつかい他者との意思疎通を重んじる傾向があり、『言霊』を大切にして生きてきたということが背景にあることはDNAレベルの記憶であり、日本人の脳・意識にとって取り入れやすいというものの一つとして明確にしておきます。

◆言霊◆

言葉に宿る霊の意。

古代の日本人は言葉に宿る霊力が、言語表現の内容を現実を実現することがあると信じていた。

言霊の信仰によって言葉を積極的に使って言霊をはたらかせようとする考えと、言葉の使用をつつしんだり避けたりする考えとの二つの面がある。

日本では和歌において言霊の思想が受け継がれ、のちの時代にまで影響を与えた。

※コトバンクより